

全国学校・園庭 2017 ビオトープコンクール報告書



全国学校・園庭ビオトープコンクール2017 受賞校・受賞園

今回もたくさんの 「実践モデル」が 選ばれました。

子どもたちは、自然との触れ合いを通して感性や思いやる心が生まれ、さまざまなことを学びます。この自然との触れ合いは、普段の生活の中で地道に積み重ねられることが肝心です。

森や林、草原、小川など、かつて私たちの周りにはさまざまなタイプのビオトープがあり、それほど苦勞せずとも自然と触れ合うことができました。ところが、近年はこのようなビオトープが次々と姿を消し、日常的に自然と触れ合うためには何らかの工夫が必要とされています。そこで、環境先進国・ドイツで考え出されたのが、「学校ビオトープ」や「園庭ビオトープ」の取り組みです。

1999年から隔年で開催し、今回で第10回(20年目)となったこのコンクールでは、これまでもたくさんの優れた取り組みを紹介してきました。しかし、ビオトープの設置や利活用のしかた、子どもたちの成長ぶり、地域への影響などは実に多彩で、毎回新しい発見があります。そして今回もまた、上位5賞の受賞校をはじめとして、たくさんの素晴らしい実践モデルに出会うことができました。

このコンクールは、子どもたちのために身近な自然をつくり、感性や思いやる心を育む場、環境教育の場としての活用を促進するために開催しています。2017年度のまとめとなる本書をぜひ、持続可能な社会を担う人づくり、自然と共存した美しい地域づくりにお役立てください。

公益財団法人 日本生態系協会
会長 池谷奉文

上位5賞

文部科学大臣賞

豊田市立 五ヶ丘東小学校 (愛知県)

地域にかつてあった自然を学校内外で取り戻すことを題材に、各学年の児童が探究するモデル

各学年においてビオトープの活用が行われるように、教育課程にビオトープを題材にした学習活動を位置づけています。調べ学習や情報発信などさまざまな活動を通じて、児童の主体的に学ぶ力が育っています。

環境大臣賞

栃木県立 那須拓陽高等学校 (栃木県)

ビオトープを通じて農業における生物多様性の保全を模索できる人材を育成するモデル

学校農場全体を大きなビオトープと考え、環境悪化の要因とされてきた農業における生物多様性の保全のあり方を各生徒が探究しています。その一環で絶滅に瀕するミヤコタナゴの野生復帰にも取り組んでいます。

国土交通大臣賞

世田谷区立 等々力小学校 (東京都)

児童の主体性を育て、地域の希少な野生の生きものを救う活動につなげたモデル

自然を題材とした各教科の授業をかためて行うことで、児童自身の想いが高まり、自らの発想で地域の希少な野生生物を守ろうとビオトープを拡充しました。この想いの高まりは他学年にも波及しています。

ドイツ大使館賞

(学)青森田中学園 青森中央短期大学(青森県)

保育者養成にビオトープを全学体制で活用するモデル

自然の活用に長けた保育者養成に全学体制で取り組んでいます。そのため、カリキュラムの中にビオトープを活用した授業を系統的に採用し、その発展的学習として地域と協働したサークル活動を行っています。

日本生態系協会会長賞

富田林市立 錦郡幼稚園 (大阪府)

園児の感性や思考力を育み、命を感じながら自然と共に生活する場を積極的に広げるモデル

園児の発想から始まったビオトープです。地域の多様な主体と連携しながら、心動かされる体験の場を園児と一緒に広げています。自然環境教育を通し、豊かな感性や思考力の芽生えを促し、人間力につなげています。

※ 上位5賞は発達段階の枠にとらわれるものではありません。
また、上位5賞の位置付けに優劣はありません。

学校・園庭ビオトープの、特に優れた取り組みが表彰されました。

★ 幼稚園・保育所・こども園

- | | |
|----------------------------|--------------------------------------|
| (学)山の手学園 平和幼稚園(北海道) | (社福)浄英会 恵和保育園(新潟県) |
| (社福)しらかば福祉会 しらかば保育園(青森県) | (学)鶴来学園 鶴来第二幼稚園(石川県) |
| 幼保連携型認定こども園 みどりの森(宮城県) | (社福)ふれあいの森 東桂保育園(山梨県) |
| (社福)花畑福祉会 つくばこどもの森保育園(茨城県) | (学)円福学園 幼保連携型認定こども園 円福幼稚園(長野県) |
| (社福)久祐会 東峰保育園(栃木県) | 伊那市立 高遠第2・第3保育園(長野県) |
| (社福)ひなどり保育園 浦和ひなどり保育園(埼玉県) | (学)雪見ヶ丘学園 幼保連携型認定こども園 井上幼稚園(愛知県) |
| (社福)藤寿会 しのめキッズパーク保育園(埼玉県) | (社福)得雲会 青松こども園(愛知県) |
| (学)聖明学園 古和釜幼稚園(千葉県) | 富田林市立 青葉丘幼稚園(大阪府) |
| (学)吉岡学園 まどか幼稚園(千葉県) | 西宮市立 高須東保育所(兵庫県) |
| (社福)砂原母の会 そあ保育園(東京都) | (社福)杉の実福祉会 高見の森保育園(福岡県) |
| (学)東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園(東京都) | (社福)心耕福祉会 幼保連携型認定こども園 ひかりの森こども園(宮崎県) |
| くらき永田保育園(神奈川県) | (学)吉井学園 認定こども園 錦ヶ丘幼稚園(鹿児島県) |
| 小学館アカデミー西いくた保育園(神奈川県) | 認定こども園 せんだい幼稚園(鹿児島県) |
| (学)平岡学園 平岡幼稚園(神奈川県) | (社福)大潟福祉会 妙円寺こども園(鹿児島県) |
| 新潟市立 沼垂幼稚園(新潟県) | |

★ 小・中・高等学校

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 苫小牧市立 苫小牧東小学校(北海道) | 静岡県立 三島南高等学校(静岡県) |
| 青森県立 五所川原農林高等学校(青森県) | 湖西市立 知波田小学校(静岡県) |
| 日立市立 大沼小学校(茨城県) | 名古屋市立 豊田小学校(愛知県) |
| 栃木県立 足利特別支援学校(栃木県) | 刈谷市立 亀城小学校(愛知県) |
| 伊勢崎市立 赤堀東小学校(群馬県) | 豊田市立 寿恵野小学校(愛知県) |
| 川口市立 芝富士小学校(埼玉県) | 大口町立 大口西小学校(愛知県) |
| 所沢市立 清進小学校(埼玉県) | 甲賀市立 油日小学校(滋賀県) |
| 所沢市立 安松小学校(埼玉県) | 滋賀県立 八日市南高等学校(滋賀県) |
| 上尾市立 大石北小学校(埼玉県) | 大阪府立 北田辺小学校(大阪府) |
| 越谷市立 大袋東小学校(埼玉県) | 大阪府立 矢田西小学校(大阪府) |
| 滑川町立 宮前小学校(埼玉県) | 吹田市立 南山田小学校(大阪府) |
| 印西市立 小倉台小学校(千葉県) | 尼崎市立 潮小学校(兵庫県) |
| 港区立 高輪台小学校(東京都) | 三田市立 本庄小学校(兵庫県) |
| 江東区立 亀高小学校(東京都) | (学)奈良学園 奈良学園中学校・高等学校(奈良県) |
| 世田谷区立 中町小学校(東京都) | 廿日市市立 宮園小学校(広島県) |
| 北区立 浮間小学校(東京都) | 大牟田市立 吉野小学校(福岡県) |
| 東京家政大学附属女子中学校・高等学校(東京都) | 古賀市立 舞の里小学校(福岡県) |
| 桐朋学園小学校(東京都) | |
| 厚木市立 相川小学校(神奈川県) | ★ 大学ほか |
| 厚木市立 清水小学校(神奈川県) | 東京理科大学 野田キャンパス(千葉県) |
| 砺波市立 出町小学校(富山県) | 福岡工業大学(福岡県) |
| 静岡市立 松野小学校(静岡県) | |

学校・園庭ビオトープの優れた取り組みが讃えられ表彰されました。

★ 幼稚園・保育所・こども園

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| (社福)大門福祉会 今泉保育園(栃木県) | 清流みずほ認定こども園(岐阜県) |
| (社福)峰悠会 おおぞら保育園(群馬県) | 西宮市立 瓦木北保育所(兵庫県) |
| (社福)ゆうゆう認定こども園 すみよし愛児園(山梨県) | 日和香幼稚園(福岡県) |

★ 小・中・高等学校

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 入間市立 東金子小学校(埼玉県) | 京都市立 朱雀第四小学校(京都府) |
| 久喜市立 太田小学校(埼玉県) | 大阪府立 園芸高等学校(大阪府) |
| 獨協中学・高等学校(東京都) | 八尾市立 曙川小学校(大阪府) |
| 世田谷区立 池之上小学校(東京都) | 東大阪府立 桜橋小学校(大阪府) |
| 荒川区立 尾久西小学校(東京都) | 西宮市立 広田小学校(兵庫県) |
| 板橋区立 板橋第二小学校(東京都) | 岡山市立 岡南小学校(岡山県) |
| 横須賀市立 武山小学校(神奈川県) | 松前町立 岡田中学校(愛媛県) |
| 五泉市立 五泉南小学校(新潟県) | |
| 福井県立 福井特別支援学校(福井県) | |
| 海津市立 大江小学校(岐阜県) | |
| 瀬戸市立 萩山小学校(愛知県) | |

★ その他

- 埼玉県立 総合教育センター-江南支所(埼玉県)



今回のコンクールを通じた 評価ポイントとそのモデル事例



審査観点1 ビオトープについて

- ① 生物多様性を保全するために、また、子どもたちの正しい自然観を培うために、自然のもの(在来種)と自然ではないもの(愛玩動物、農作物、園芸種、外来種)を区別している。
- ② (規模にかかわらず)目標とする野生の生きものの誘致や自然発生を目指して、課題を見いだしながら、保全管理で工夫している。

📌 天然記念物のミヤコタナゴの復活を目指す。そのためにまずミヤコタナゴの産卵に必要なマツカサガイの繁殖に向けて環境を整えている。(栃木県立那須拓陽高等学校)



審査観点2 子どもの関わりについて

- ③ (特に幼児教育や保育の場合)自然との触れ合いをきっかけとして、遊びに発展性や他の活動への展開が見られる。
- ④ 自然との触れ合いにとどまらず、野生の生きものの生育・生息しやすい環境づくりや、他の子どものビオトープへの関心を高める普及活動などへと発展している。

📌 地域の学識経験者や団体の協力を得て、園児の気付きや思考をビオトープづくりにつなげている。(富田林市立錦郡幼稚園)



審査観点3 ビオトープの活用について

- ⑤ 各学年、各教科等の教育課程に、ビオトープを通じた学習を系統立てて位置づけている。
- ⑥ 子どもの気付きや探究する態度を培う工夫をしている。

📌 学年ごとに、ビオトープを題材にした年間70時間の授業計画を作成。各教員はそれを参考に、トンボのための環境づくりなど授業を展開している。(豊田市立五ヶ丘東小学校)

- ⑦ (幼児教育や保育の場合)園庭の自然の様子、園児の活動、そのときの援助の内容などを継続的に記録、検証し、次年度に活かしている。
- ⑧ 体験活動や学習活動による子どもの成果物が蓄積され、授業の結果が検証されている。

📌 カリキュラム・アセスメントを通じて、レッドデータの生きものを救うため、さまざまなアイデア出しを促す。そのアイデアをもとに、新たな池を整備した。(世田谷区立等々力小学校)



審査観点4 保護者や地域の方々の関わりについて

- ⑨ ビオトープを子どもと地域の多様な主体との協働の場と捉え、また、子どもが協働する主体の想いや考えを体感する機会と位置づけている。
- ⑩ 多様な主体と継続的に連携しながら、保全管理を行っている。

地域の環境団体スタッフの指導のもと、保護者有志、教員が一緒になって保全管理や授業を実施している。(所沢市立安松小学校)



審査観点5 持続的な管理活用の体制づくりについて

- ⑪ 教職員全員がビオトープを通じた教育に携わっている。
- ⑫ 教員間、児童・生徒間で、ビオトープに関する活動の引継ぎが行われている。
- ⑬ PTAや地域で、ビオトープの管理活用を支える体制が整っている。

全校児童の前での引き継ぎ式。5年生がビオトープをより良くするために行ったことを報告した後、引き継ぐ4年生に伝統のゴールデンスコップを手渡す。(日上市立大沼小学校)



審査観点6 地域への広がりについて

- ⑭ ビオトープと地域の自然との比較がなされている。
- ⑮ ビオトープが地域の自然につながっていることの必要性について、気付きを促している。
- ⑯ 学校・園庭ビオトープの地域での普及、もしくは、自然との共存という考えの普及に貢献している。

ビオトープサークルが中心となり、地域でのビオトープの普及に向けて絵本を制作し、青森市内の幼稚園・保育園・こども園に配布するなどしている。(青森中央短期大学)



ビオトープでの自然体験イベントへの参加を地域の方にも広く呼びかけ、地域が交流する場となっている。(学)吉岡学園まどか幼稚園)



このコンクールでは、学校ビオトープ・園庭ビオトープを通じた教育や保育を、6つの審査観点で評価しています。

ここに挙げたものは、それらの審査観点に基づき、審査委員が高く評価したポイントや事例です。学校ビオトープ・園庭ビオトープを上手に活用する際のポイントとしてご紹介します。



秋篠宮殿下のおことば



本日、「全国学校・園庭ビオトープコンクール2017」の発表と交流大会が開催されるにあたり、皆さまと共に出席できましたことを、たいへん嬉しく思います。そして、この度、各賞を受賞される皆さま

に心よりお祝いを申し上げます。

自然は、多様な生き物が暮らしていく場であるとともに、地球温暖化の防止や災害による被害の軽減をはじめ、多くの機能を有しております。そして、その自然の活用は、教育や保育においても大切なものと考えられており、なかでも幼児教育や保育においては、自然との触れ合いが子どもの豊かな感性や思いやりの心を育てると言われています。また、学校教育では、自然とそこに生息する生物を観察することにより、児童・生徒たちの興味や関心を喚起し、探究する力を育てるとともに、その中から今までにない知見が得られることがあります。

子どもたちの周りから身近な自然が少なくなりつつある今日(こんにち)、学校や園庭に作るビオトープは、さまざまな面で、園児・児童・生徒たちの成長に資する大切な空間であると言えます。この度のコンクールにおける受賞事例では、身近な自然を積極的に活用した、興味深い取り組みが紹介されています。このような活動は、これからの教育や保育にとっての参考事例になりましようし、現在国際社会が求めている持続可能な社会に向けた人づくり、そして地域づくりにも大きく貢献する意義深いものと考えます。

終わりに、本コンクールも今回で10回目を迎え、身近な自然の大切さが広く認識されるようになってまいりましたが、このことは、これまで活動に携わってこられた多くの方々のご尽力によるものであり、ここに深く敬意を表します。そして学校ビオトープ、園庭ビオトープの取り組みが、今後も日本各地で普及し、自然を慈しむ心の輪が広がっていくことを祈念し、私の挨拶といたします。



主催者あいさつ (公財)日本生態系協会 会長 池谷奉文

本日は、学校関係者、保育関係者、ビオトープの活動に関わる団体・企業の皆さまなど、全国から多くの方に

お集まりいただき、誠にありがとうございました。

国際的に求められています「持続可能な社会」を構築していく上で、その基盤となる自然を守り育てていくことがたいへん重要となります。たとえばドイツでは、1980年代にはビオトープを保全・再生しネットワークさせるまちづくりを実現させていました。

私たちの協会では、そうしたまちづくりがわが国においてより一層進むよう、その人づくりの場である学校ビオトープ・園庭ビオトープの普及に向けて、今後とも力を注いで参ります。

全国学校・園庭 ビオトープコンクール2017 『発表と交流大会』

2018年2月11日(日) 13:00-16:00
東京大学
伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

第1部 開会

開会のあいさつ 池谷奉文 (公財)日本生態系協会 会長

秋篠宮殿下のおことば

来賓のごあいさつ 新妻秀規氏 文部科学大臣政務官
笹川博義氏 環境大臣政務官
築和生氏 国土交通大臣政務官
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン氏 ドイツ連邦共和国大使

表彰式(上位5賞)

上位5賞受賞校・受賞園の取り組みの発表★

講評 教育の視点から 佐島群巳氏 東京学芸大学 名誉教授/帝京短期大学 名誉教授
環境の視点から 三島次郎氏 桜美林大学 名誉教授

第2部

ポスター発表 日本生態系協会賞、ビオトープの活動を支援する団体・企業
賞状の授与 日本生態系協会賞、学校・園庭ビオトープ奨励賞

祝賀懇親会

★ 取り組みの発表は、ウェブで動画をご覧ください。
<http://www.biotopcon.org/>



講評 …教育の観点から

ビオトープは人間形成に 欠かせない教育資源

東京学芸大学 名誉教授
帝京短期大学 名誉教授

佐島群巳氏

各受賞校・園の取り組みを拝見し、三つの感動を申し上げたいと思います。

一つ目は、子どもの発想からビオトープが生まれ、子どもの発想でビオトープが広がっている点です。「園で生きものを探したい」「学校で生きものすめる場所をつくりたい」という子どもたちの、非常に率直で素朴な発想が個々の活動の大きなきっかけになっていました。

二つ目は、先生方の願いがあふれているという点です。現代の子どもたちは、バーチャルな世界にどっぷりと浸かり疑似体験の肥大化が進んでいます。そうした中で、先生方は「もっと子どもたちに本物の体験をさせたい」「子どもが本来持っている感性と知性と社会的な行動力を身につけさせたい」という意欲をもち、ビオトープを通じた教育や保育に取り組まれていました。

三つ目は、先生方が現代の子どもたちに求められる能力や人間力をきちんと認識し信念をもってビオトープを実践されているという点です。幼稚園や保育所等の場合は、子どもの、自然に親しみをもち、自然を愛し、自然を大事にする、そして子どもの本来持つ感性を磨いていくことをねらいとして取り組まれていました。小中学校では、「自分たちの地域・ふるさとの自然を復活しよう、回復しよう」という態度の醸成、さらには、高校以上では「学んだことを、持続可能な社会をつくるために地域に活かしていく」という実践力の育成まで教育のねらいに込めて、教育が実践されてきました。子どもたちに対して、知識だけではなく、体験を通じて態度や実践力が身につくようカリキュラムが改善され、展開されていたことがとても印象的でした。

「子どもたちを支える先生」、「地域の方々」、皆が一体となって作り出した「生物多様性」、これらは子どもたちの人間形成になくてはならないものです。私はこれを「教育資源」と言っております。この教育資源を効果的に活かすために学校・園庭ビオトープがあるのです。今回印象的であった三つの感動と共に、この教育資源がより一層全国に広がることを願っています。



講評 …環境の観点から

生きものの声を聞く力 自然の働きを見る力

桜美林大学 名誉教授

三島次郎氏

私は、各受賞校・園の事例を拝見し、ビオトープの生きものに代わり、皆さまに御礼を申し上げたいと思います。ただ、私が言うまでもなく、受賞校・園の皆さまは生きものの言葉無き声を既に耳にされているかも知れません。これはビオトープと付き合っていく上で、とても大切なことです。生きものの言葉を耳にするためには、たくさんの生きものが生き、たくさんの時間が流れ、移り変わりながら現代に至る「自然」をよく知る必要があります。

幼稚園や保育所から大学に至るまでさまざまな発達段階があり、異なりはあるとは思いますが、見えない自然の働きを見る目を持つことも大切です。見えないものは見えるはずがないと、思う方がおられるかもしれません。例えば、1本の草がどれくらい水を蒸発させているか、酸素を作り出しているか、実験する方法はいろいろとあります。感じることで以外にも、そうした実験を通じても見えない自然の働きを知る方法があると思います。

自然についての理解を深めていけばいくほど、そこに本当の学習の面白さが見えてきます。例えば田んぼとトンボ。このたびのコンクールでもトンボのために田んぼをつくった事例を幾つか拝見しました。トンボが生きていくためには虫がいなければなりません。その虫がたくさんいると稲はうまく育ちません。トンボから見れば、田んぼには虫がたくさんいた方がよい。私たち人間からすれば、田んぼに虫は1匹もいない方がよい。さて、私たちはどのような田んぼをつくったらいいのでしょうか？

私たちはいろいろな場面で自然との付き合い方を考えることが求められています。幼児から大学生に至るまで、聞こえない生きものの声、見えない自然の働きを感じる力を、学校・園庭ビオトープを通じて、引き続き培っていただきたいと思っています。

2018年2月11日(日)、コンクールの締めくくりとなる『発表と交流大会』を開催しました。

上位5賞の受賞校・受賞園によるステージ発表のほか、協会賞や学校・園庭ビオトープの活動を支援する団体・企業などによるポスター発表が行われ、約500人がつどった会場は満席、関心の高さがうかがわれました。

また、閉会後の祝賀懇親会では、さまざまな分野、立場の方にご参加いただき、お祝いや労いとともに、幅広く親交が深められました。



(公財)日本生態系協会の人づくり事業

(公財)日本生態系協会は、自然と伝統が共存し美しく持続するまちづくり・くにづくりに向けた提案を行うシンクタンクです。1992年の設立以前よりアメリカと欧州(ドイツ)に事務所を置き、世界各国の行政やNGOと連携を図っています。

全国学校・園庭ビオトープコンクール2017 2017年4月～2018年3月

主催 (公財)日本生態系協会

後援 文部科学省、環境省、国土交通省、農林水産省、厚生労働省、ドイツ連邦共和国大使館、全国国立幼稚園・こども園長会、全日本私立幼稚園連合会、(社福)全国社会福祉協議会 全国保育協議会、(社福)日本保育協会、(公社)全国私立保育園連盟、NPO法人全国認定こども園協会、全国小中学校環境教育研究会、(公社)日本ナショナル・トラスト協会、日本ビオトープ管理士会

協賛 (株)アボック社、カシオ計算機(株)、自然の会(有志出版社)、(一財)土屋環境教育振興財団、(株)フォーバル

今回は2019年度に開催の予定です。取り組みを充実させ、ぜひご参加ください。また、協賛としてご参加いただける企業も募集しています。

●人づくり事業

幼稚園教諭や保育士などを主対象とする「こども環境管理士」の認証
ビオトープ事業を担う最先端の技術者「ビオトープ管理士」の認証
自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー(ドイツなど)の実施
「全国学校・園庭ビオトープコンクール」の開催

- 1999年度(平成11年度) 第1回全国学校ビオトープ・コンクール
- 2001年度(平成13年度) 第2回全国学校ビオトープ・コンクール
- 2003年度(平成15年度) 第3回全国学校ビオトープ・コンクール
- 2005年度(平成17年度) 全国学校ビオトープ・コンクール2005
- 2007年度(平成19年度) 全国学校ビオトープ・コンクール2007
- 2009年度(平成21年度) 全国学校・園庭ビオトープコンクール2009
- 2011年度(平成23年度) 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011
- 2013年度(平成25年度) 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013
- 2015年度(平成27年度) 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015
- 2017年度(平成29年度) 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017

●その他の事業

美しい日本をつくるための政策の提案、地域づくりの計画の提案
多様な自然の生態系を再生する手法に関する調査・研究
生物多様性の保全・回復を定量的に評価する「JHEP」認証シリーズ
自然を守るために土地を取得するナショナル・トラスト活動
自然を再生するお墓「森の墓苑」の運営 … など



公益財団法人

日本生態系協会

全国学校・園庭ビオトープコンクール係

☎171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル

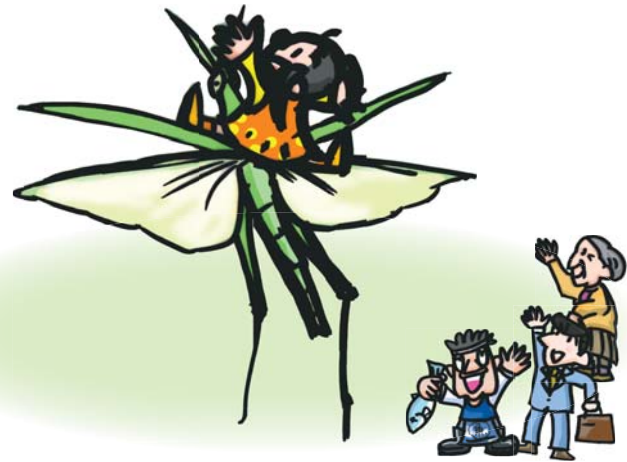
www.biotopcon.org



☎03-5951-0244 月・金 9:00～18:00 土 9:00～15:00

今日を愛する。
LION

ライオンは全国の事業所にて
生物多様性の保全活動に
取り組んでいます



TSUCHIYA は
ビオトープ活動を
応援しています。

TSUCHIYA 株式会社

【東京本社】
〒135-0016
東京都江東区東陽 2-2-4
TEL: 03 (3615) 0505

【本社・本店】
〒503-0917
岐阜県大垣市神田町二丁目 55 番地
TEL: 0584 (81) 5111

TSUCHIYA
土や人が築く未来。